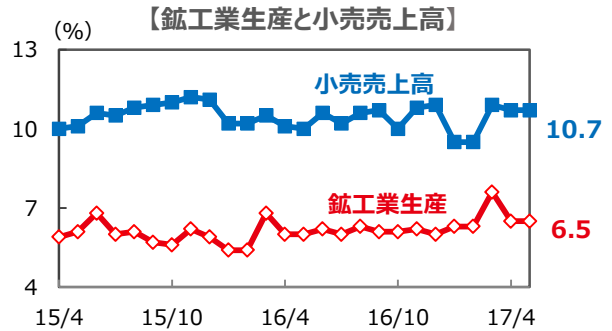


今日のトピック 最近の指標から見る中国経済（2017年6月）

底堅い動き、過熱気味の景気は安定成長へ

ポイント1 鉱工業生産の伸び横ばい 小売売上高も横ばい

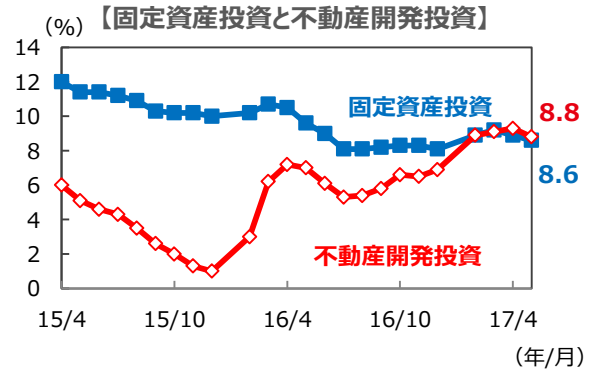
- 5月の鉱工業生産は前年同月比 +6.5%と、4月（同+6.5%）から横ばいとなり、市場予想（ブルームバーグ、同+6.4%）をやや上回りました。
- 5月の小売売上高も前年同月比+10.7%と、4月（同+10.7%）から横ばいでした。同指標は市場予想通りでした。インターネット販売が高水準を保ちました。



(注) データは2015年4月～2017年5月、前年同月比。
1月、2月は2月の年初来累計の前年同期比。数字は2017年5月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 固定資産投資の伸び鈍化 不動産開発投資が減速

- 1～5月の固定資産投資は前年同期比 +8.6%と、1～4月（同+8.9%）から伸び率が鈍化し、市場予想（同+8.8%）を下回りました。不動産開発投資の減速などが要因です。
- 不動産開発投資（1～5月）は同+8.8%となり、1～4月（同+9.3%）から伸び率が鈍化しました。引き締め気味の金融政策の効果が始まった可能性があります。



(注) データは2015年4月～2017年5月、年初来累計の前年同期比。
数字は2017年5月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 過熱気味の景気は安定成長へ向かおう

- 中国国家統計局が14日発表した主要経済指標は、固定資産投資が前月から減速したものの、鉱工業生産や小売売上高は横ばいの伸びとなり、総じて底堅い動きでした。
- 中国当局は、景気の過熱に伴うバブル発生を警戒しており、金融政策を引き締め気味に運営しています。足元の経済指標の動きは、1～3月にやや過熱した中国経済が引き締め策により緩やかに減速していく過程と考えられます。先行きは、政府目標（6.5%程度）並みの安定成長へ向かうと見られます。

ここもチェック! 2017年5月22日 先高観が根強い「70都市住宅価格」(中国)
2017年5月15日 最近の指標から見る中国経済(2017年5月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。